

令和7年10月1日

学校法人 西鉄学園
西鉄自動車整備専門学校
校長 椎葉 小夜子

「自己評価及び学校関係者評価結果（令和6年度版）」 報告

学校法人西鉄学園 西鉄自動車整備専門学校では、令和6年度の自己点検・自己評価を実施し、本校規程に基づき学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、ここに学校教育法施行規則第189条に則して「自己評価及び学校関係者評価結果（令和6年度版）」を公表いたします。

学校関係者評価委員会からのご意見を真摯に受け止め、教育力の更なる向上、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力して参ります。

今後とも、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■学校関係者評価委員

	氏 名		所属等
企業・団体	自動車業界	阿部 秀亮	トヨタカローラ福岡株式会社 総務部 人事グループ グループ長
		飯山 浩平	トヨタカローラ福岡株式会社 サービス部 技術グループ グループ長
	業界団体	寺崎 浩二	一般社団法人福岡県自動車整備振興会 指導部 部長
	教育有識者	平野 孝幸	高等教育有識者 (高等学校校長経験者)
	卒業生	松尾 哲也	日産福岡販売株式会社 サービス本部 HITEQ センター 課長代理
事務局 (学内)		椎葉 小夜子	理事・校長
		目原 宏輝	教頭
		浅井 朋晃	総務・学生課 係長
		村井 悠紀	教務・就職課

西鉄自動車整備専門学校 自己評価及び学校関係者評価結果(令和 6 年度版)

令和 7 年 10 月 1 日公開 予定

評価項目	自己評価	学校関係者評価
<p>(1) 教育理念・目的・人材育成像</p> <p>-----</p> <p>○理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針</p> <p>○学科ごとの修業年限に応じた教育到達レベルの設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程編成においては、国土交通省規定のもと、業界のニーズに沿ったものかどうか確認が必要である。 業界からの意見を反映し、業界で必要とされる資格の斡旋を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 最近の新入社員は、勉強の仕方を知らない人が多いと感じる。学校での勉強とテスト、その振り返りを行い、学んだことを定着させることが重要。そのことを学生にしっかりと身につけさせてほしい。 国家試験時にカンニングと取られかねない行為をする学生がいる。在学中に受験時のルールをしっかり教育してほしい。 検査員の要件として1級の資格が必要になる可能性があることを踏まえ、1級取得希望者が増えている印象がある。企業としては1級所持者を増やしていきたい。専門学校としても1級課程の設置が必要になると思われる。 専攻科設置での1級課程実施は学生目線で考えると、就職との兼ね合いで早期のうちに専攻科に進むかどうかの選択が必要となり、難しい側面も考えられる。
<p>(2) 教育活動</p> <p>-----</p> <p>○教育目的・目標に沿った教育課程の編成</p> <p>○資格・要件を備えた教員の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和 7 年度より開始された整備士養成課程のカリキュラム実施で洗い出される課題への対応が必要。 企業への協力の呼びかけや、企業からの提案受け入れにより、多くの企業との連携を模索していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 新課程は始まったばかりで、現状これといった問題は出ていない。どの学校も上手く移行している印象。 国家試験については現行の試験と新課程の試験が並行して実施される時期が数年続いたため、受験時に新旧試験の会場等を間違えないよう注意が必要。 実習講師として現役メカニックを派遣する場合、人員不足で難しい面がある。回数を減らしての実施やスポットでの実施であれば派遣もしやすい。 企業の退職者を紹介してもらうのも良いのではないかな。 派遣される講師への学校側のニーズを伝えると企業側としては対応しやすい。
<p>(3) 学修成果</p> <p>-----</p> <p>○就職率向上への取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> 企業が求める人材像、意向(特に社会人マナー)を把握し、学生に伝え、日々そのことについて指導することで心構えを持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 技術は入社してから身につけさせることができるが、学生のうちに社会人マナーの基本中の基本となる部分を習得しておいてほしい。また、道徳観を養い周囲から見てどう思われるか考えて行動できるようになってもらいたい。 従来と比べて地域で子供を育てる環境ではなくなっている。夫婦共働きが多くなり家庭内での教育もできていない。そんな社会環境の中、学校での人間教育の必要性が増している。 素直であることが大事。素直であれば社会に出た後も伸びやすい。 身につけさせたいことをスローガンとして打ち出し、意識を持たせると良い。
<p>(4) 学生支援</p> <p>-----</p> <p>○退学率低減への取り組み</p> <p>○学生相談に関する体制の整備</p> <p>○学生の経済的側面に対する支援体制</p> <p>○卒業生への支援体制の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> 経済的困窮によって精神面を病む留学生が多く、その対策が課題。学費納付が困難な学生には相談に応じ、生活に支障をきたさないよう支払い計画を立てて、精神的負担を軽減するように努めている。 経済的に困窮している留学生に企業奨学金貸付制度を設けている企業を紹介して就職を斡旋するなど、負担を軽減するための支援を行う。 悩み等があっても相談にこない学生への対応が課題。 卒業生の相談には元担任や就職課が対応しているものの、発生ベースに限られていることが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 留学生に関しては国によって送金ができないところもあり、自身のアルバイト代のみで学費や生活費を工面しないといけない現状や更に運転免許の取得もあり、配慮することはもちろんのこと、何かしらの対策が必要と考える。 学生の異変に早期に気づけるように普段から意識して観察しておくことが必要。 卒業生座談会のような取り組みを今後も継続して、定期的実施してほしい。 企業訪問時に卒業生に声掛けをし、状況の聴き取り等を行うことでサポートにつながると思う。

<p>(5) 教育環境</p> <p>-----</p> <p>○教育上の必要性に対応した施設・設備・教育用具等の整備</p> <p>○学内における安全管理体制の整備と適切な運用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空調設備の整備については、投資計画において検討する。夏期期間は日々熱中症対策の意識付けを行い、学生の対策意識醸成を図る。 ・ 引き続き安全管理意識の啓発を常時行い継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動も体調管理の一つとなることや、体調を維持するための行動を指導することも大事。 ・ リフト操作時は重大な怪我のリスクが高いため、声掛けの徹底により安全への意識を持たせることが重要。 ・ 昨今の自動車はタイヤが大きくなって、重い物を持ち上げることが多くなっており、腰を痛める等の事例が増えている。対策が難しいが作業前の体操など何かしらの対策は必要。 ・ 適切な保護具の使用や正しい工具の使い方の指導を徹底して、安全作業の意識を持たせてほしい。
<p>(6) 財務</p> <p>-----</p> <p>○学校及び法人運営の中長期的な財務基盤の安定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物価高騰による費用の拡大に鑑み、学校経営を安定化させるための営業収入の確保と維持が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に問題ない。引き続き学生確保に努めてほしい。
<p>(7) 法令等の遵守</p> <p>-----</p> <p>○法令や専修学校設置基準の遵守と適正な学校運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生に対しては、規則を記載した学生便覧を配布し、オリエンテーション等で周知を図り日常的指導に生かしている。また、警察と連携した講習も行っている。 ・ 未成年者による飲酒・喫煙、並びに交通違反などの法令違反の撲滅が課題。 ・ 学生自身が犯罪に巻き込まれないよう、意識を持たせることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 警察との連携等によって、情報の収集や外部の方に来ていただき学生に緊張感をもって話を聞かせることは有効。現状多い犯罪等について事例を交えて注意を促す、それを言い続けていくことが大事。また、普段から異変がないか観察し、早期のうちに察知して対処することが必要。 ・ 巷ではオンラインカジノなど目が行き届かない犯罪が増えているので、携帯電話会社やLINEといった企業による防犯意識を高める無料講習等を利用するなどして啓発活動を実施することは大事である。
<p>(8) 社会貢献・地域貢献</p> <p>-----</p> <p>○学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣住民の方々に学校を知ってもらうこと、早期の段階から自動車に興味・関心を持ってもらうことを目的に、企業と連携した文化祭の実施や、西鉄グループの小学生向けイベントへの参加など、自動車を身近に感じてもらう取組みを行っている。また、近隣の保育園の園児に自動車に触れる機会を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業では小学校や中学校から職業体験等の依頼があり、それに応える形で小中学生との接触機会を得ている。 ・ 職業教育に関して学校が提供できる教育内容を明確にし、それを各学校に案内しておく、更なる機会を得ることに繋がる。